

見事な優勝 と言いたいところだが・・・
大相撲九州場所観戦の感想雑記

<1> 今場所はこう終わったが・・・

「白鵬見事な43回目の優勝」 と言いたいところだが・・・

二日目に成長著しい大栄翔の猛攻に屈した白鵬の前半戦の勝ち方には、どこことなく不安定さを感じた。ことによると崩れるのではないかと心配したのだが、横綱鶴竜の休場で始まり、大関豪栄道・高安が順に休場し、白鵬としては締め役を務めざるをえない状況に追い込まれてしまった。

朝乃山・正代らを中心に何人かが白鵬を追う形になってはいたが、日を追うに連れて脱落していく。そのカーブと反比例するように白鵬の相撲に厳しさが増してきて、14日目で優勝が決まってしまった。これまでに何度か述べてきたように、角界の人材問題は目下危機に直面している。「いつまで白鵬が君臨するのか？」ではなくそれ以上に「いつまで白鵬に頼るのか？」の方が問題であろう。

「横綱・大関陣の衰退」と「新しい大関・横綱の誕生」とがどのように進むのか。事がうまく運ばない場合には「横綱・大関不在」の状況も考えられる難局に差し掛かっている。

<2> 今場所目に止まった力士達

朝乃山：右四つの型を持ってはいるが、早い立ち合いと鋭い踏み込みで体全体を使って前へ前へと進みながら次の手を出し続ける。ある時は前みつであったり上手であったり、ある時は差し手であったり、はたまたはず押しであったり。先場所辺りから身についてきたこの相撲の型が実を結んできた。表情にも「ひ弱な若者の顔」は姿を消し「勝負師の顔」が見えてきて、この場所誰よりも力強さを感じさせた。西小結の地位で11勝4敗・技能賞は見事だし、上位の番付での定着が期待できる。

阿炎：長軀で体の上の方で長い腕を伸しての突き押し。今場所は前進圧力が加わったことで星を上げたが、がら空きの懐をめぐらして攻められる弱さも露呈した。相手が何も出来ない位の速度で突っ走りながら突き押しを連発で繰り出せば勝てるが、背中合わせに墓穴が待っている。東小結で9勝6敗を上げたが、来場所は相手に研究されるかもしれない。

大栄翔：ここ一年ほど、叩かれても交わされても実直な押し相撲を続けてきた結果、かなりの力を付けて来た。小細工しない真面目な相撲ぶりは「いつか花咲く」と感じていたが、今場所その時が来た。白鵬を破る金星もあり殊勲賞に輝いたことも合わせて、自己最高位の東前頭筆頭での勝ち越しは価値がある。

松鳳山：35歳の今でも新十両松谷の時代の気迫が残っている。突き押しあり、組んで良し、投げ技の切れ味も良いし、土俵際の粘りもある。怪我をしないということは、稽古量が多いと思われる。8勝7敗に終わりはしたが、中身の濃い15日間だった。

正代：西前頭10枚目まで来ると上位陣とあたらないためか好成績を上げる。千秋楽に勝って11勝4敗で敢闘賞を手にした。往年の大麒麟を思わせるような柔らかな上半身だが、立ち合いに胸を出して行く癖があり威力に欠けるのが欠点だったが、修正されていなかった。もう28歳で若手力士でもない。

輝：前半戦の取り組みを見ていると、遂に一皮むけたかと思うような相撲で中日まで6勝2敗だった、後半失速気味で10勝5敗に終わったが、幕内で初めての10勝なので弾みがつくかもしれない。

妙義龍：大関に一番近い「安定した関脇」と言われた時代もあったが、膝を中心とした怪我が何度も襲いかかり十両に転落したこともあった。苦況をはね除けて幕内上位に戻って一年を越えた。低い腰の構えではず押しと四つ身を駆使する取り口は強さと巧さを感じられる。8勝7敗の成績の中には光るものが沢山あった。

炎鵬：西前頭6枚目まで上がってきた。上位陣にどこまで通じるかが見所だったが、千秋楽に勝ち越しを決定し8勝7敗。素早い判断と身のこなしが光っていたが、相手によっては全く通じないこともある。

よく相手を研究して「苦手の克服」にも勤めているようだし、来場所三役相手にどこまで通じるか注目したい。白鵬が優勝者インタビューの中で「炎鵬と戦う必要が無くてよかった」と笑っていた。

北勝富士：序盤で鋭いあたりと力強い押っつけとはず押しで、ことによると・・・と思わせたが、7日目の大栄翔戦あたりから相撲に迷いが生じたような取り口で、7勝8敗で新小結の勝ち越しはならなかった。15日間迷わず自分の相撲が取れるようになったら、向かうところ敵なしだと思うが、残念。

明生：大栄翔と同じように、引いたり叩いたり逃げたりしない実直な相撲はいつか実を結ぶと期待して見てきた。自己最高位の西前頭2枚目で、6勝9敗と跳ね返されたが、負けた相撲にも成果を感じられるものがあり、来場所に繋がる何かを得たかもしれない。

<3> そして来場所は・・・

豪栄道はカド番で大関の座を守るべく8勝を目指し、今場所9勝しか上げられずまだ大関としての安定した働きになっていない貴景勝と二人で大関の地位を飾る。つまり大関は「攻めの地位」と言うよりも残念ながら「守りの地位」の印象が強い。

関脇・小結は、上昇機運の若手に混じって、大関から陥落した高安が「10勝上げれば大関復帰」の特例に挑むことになると思われる。

まだまだ上位陣歯抜けの戦国状態が続くようなので、来場所も時代の節目の何らかの揺らぎがありそうな予感がする。

そんな中で「次の大関」が大きな話題となってくるのだが・・・。

焦る余り安易な基準解釈や甘い基準の運用で走ることが考えられるのだが、これは極めて危険なことと認識しておかなければならない。大関という地位の現状・実態をよく見た上で、ムード先行になることなく、冷静かつ慎重にことを進めていただきたいと思う。

以上

<付録> 四股名を眺めてみる（幕内42力士）

東			西		
力士名	出身地	四股名の由来	力士名	出身地	四股名の由来
鶴竜	モンゴル	井筒部屋ゆかりの鶴	白鵬	モンゴル	色白な子+大鵬
豪栄道	大阪	栄高校+本名（豪太郎）	高安	茨城	本名（姓）
貴景勝	兵庫	本名の一部+上杉景勝			
御嶽海	長野	故郷の山（木曾御嶽山）	栃ノ心	ジョージア	春日野部屋ゆかりの栃
阿炎	埼玉	師匠の仇名（阿修羅から）	遠藤	石川	本名（姓）
北勝富士	埼玉	北勝海+千代の富士	朝乃山	富山	高砂部屋ゆかりの朝潮
大栄翔	埼玉	師匠の四股名+栄高校	隠岐の海	島根	故郷の地名（隠岐）
妙義龍	兵庫	色々な技を繰り出せる	明生	鹿児島	本名（名）
宝富士	青森	師匠の四股名+角界の宝	友風	神奈川	師匠の四股名から風
玉鷲	モンゴル	片男波部屋ゆかりの玉	琴勇輝	香川	琴+本名（名）
碧山	ブルガリア	師匠の故郷の海の色	竜電	山梨	中学校の名（竜）+雷電
阿武咲	青森	阿武松部屋ゆかりの阿武	炎鵬	石川	魂を燃やす炎+白鵬
剣翔	東京	本名（剣一郎）+師匠の名	琴恵光	宮崎	琴+祖父の四股名から
松鳳山	福岡	本名（松谷）から一文字	佐田の海	熊本	父親の四股名を継承
琴奨菊	福岡	琴+姓（菊次）から+奨	豊山	新潟	時津風部屋ゆかりの名
志摩ノ海	三重	故郷の地名	正代	熊本	本名（姓）
石浦	鳥取	本名（姓）	千代大龍	東京	九重部屋ゆかりの千代
逸ノ城	モンゴル	本名の一部+高校の名から	隆の勝	千葉県	師匠の四股名の一文字
千代丸	鹿児島	九重部屋ゆかりの千代	輝	石川	北陸新幹線の名前から
照強	兵庫	周りを強く照らす力士に	錦木	岩手	伊勢ノ海部屋ゆかり
大翔丸	大阪	師匠の四股名+体型	大翔鵬	モンゴル	師匠の四股名+白鵬の鵬
若隆景	福島	小早川隆景+祖父四股名			

- ◇本名（姓または名）を四股名にしている力士・・・5人（高安・遠藤・正代・明生・石浦）
- ◇本名を折り込んだ四股名・・・7人（豪栄道・貴景勝・剣翔・松鳳山・逸ノ城・琴奨菊・琴勇輝）
- ◇故郷の地名またはそれを折り込んだ四股名・・・3人（御嶽海・隠岐の海・志摩ノ海）
- ◇部屋の由緒ある四股名・・・2人（豊山・錦木）
- ◇部屋の由緒ある四股名の一部を折り込んだもの・・・10人（鶴竜・栃ノ心・朝乃山・玉鷲・琴勇輝・琴恵光・阿武咲・琴奨菊・千代大龍・千代丸）
- ◇師匠の四股名の一部を折り込んだもの・・・8人（北勝富士・友風・隆の勝・大翔鵬・大栄翔・宝富士・剣翔・大翔丸）
- ◇親族の四股名・・・1人（佐田の海）
- ◇親族の四股名を折り込んだもの・・・2人（琴恵光・若隆景）
- ◇その他・・・5人（白鵬・妙義龍・碧山・竜電・炎鵬）

昔の力士の四股名には故郷の地名を折り込んだものが多かったが、今では稀少で3人しかいない。その反面、「凝りに凝った四股名」が現れるようになり、「難読四股名」も少なくない。多くの人に読まれやすい四股名、耳にしても目にしても美しさが感じられる四股名が望ましいと思うのだが、どうやらそうはなっていないような感じがして、残念な気がする。